法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-09-15

交際終了後のつきまとい・ストーキング行動尺度の作成と分析 ： 改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析（8）

越智, 啓太 / OCHI, Keita

(出版者 / Publisher)
法政大学文学部
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
法政大学文学部紀要 / Bulletin of the Faculty of Letters, Hosei University
(巻 / Volume)
83
(開始ページ / Start Page)
127
(終了ページ / End Page)
137
(発行年 / Year)
2021-09-30
(URL)
https://doi.org/10.15002/00024750

交際終了後のつきまとい・ストーキング行動尺度の作成と分析

――改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析（8）――

越　智　啓　太

要　約

本研究では，交際終了後におけるつきまとい・ストーキング系のハラスメントを測定する尺度を作成した。1000 組のカップルを 2 年間追跡した結果，この期間に別れを経験した 104 名のデータを収集することができた。このうち，32.7％が何らかつきまとい・ストーキング系のハラスメントを受けていた。彼らのハラスメントの内容の評定に基づき，未練，攻撃，なれなれしさの三つの因子からなる測定尺度が構成された。分析の結果，これらの尺度得点に性差はなく，また，別れの形態や別れたときの感情との間には関連が認められなかった。

キーワード：ストーキング，恋愛行動，ハラスメント，デートバイオレンス

1. 問　題

いわゆるストーカー行為は，現在大きな社会問題となっており，殺人事件にまで発展してしまったケースも何件も発生している。このようなストーカー事案の中でもっとも，数が多く，かつ状況が悪化しやすいものは，交際や結婚を経た後，交際終了後，あるいは別居，離婚後に行われるストーキング行為である（越智，2013；警察庁，2021）。例えば，桶川女子大生殺人事件，逗子ストーカー殺人事件，三鷹ストーカー殺人事件など殺人事件にまで発展した著名なストーカー事件は，いずれも交際解消後に一方（男性側）がストーカーとなったケースである。したがって，ストーキングについて研究し，対策していく場合には，その前提としてこの種のストーキングの発生頻度やその特徴について理解しておくことが必要である。しかしながら，この調査はなかなか困難である。ひとつの理由は，このような調査を行う場合，ストーキングの被害者として警察に相談にきたものや，ストーキング防止法などで検挙されたケースを対象にするものが多い（島田，伊原 2013；四方，島田 2014；島田，2016）が，このような方法をとると，そもそものストーキングの発生頻度がわからず（被害者のみを母集団とするため），また，警察に届けられないマイルドな（かつもっともよく生じていると思われる）ストーキングの実態がわからないからである。このような問題を回避するためには，まだ，ストーキングの被害に遭っていない交際中のカップルを追跡し，そのようなカップルの交際終了後にどの程度，どのようなストーキングが発生するのかを明らかにしていくことが必要である。そこで，本研究では，1000 組のカップルを 2 年間にわたって追跡調査し，ストーキング・つきまといの発生頻度をあきらかにするとともに，その特徴について検討してみることにする。

2. 調　査

2-1. 方　法

調査参加者と手続き：あらかじめ調査会社のデーターベースに登録されている調査協力候補者の中から，現在異性と交際している全国の18歳～39歳までの未婚の男女1000名（男性500名，女性500名）を調査対象としてウェブ調査を行った。調査に関する概要説明，データの使用方法などについての説明文書を呈示し，調査対象となることに同意したもののみに対して調査を行った。この手続きは第1回，第2回両方で同様な方法で行われた。第1回調査は平成28年12月に行われ，交際の状況や期間，自分や交際相手の属性に関する質問に回答させた。その後，2年間の間を置き，平成30年12月に第2回目の調査を行った。第1回目と第2回目の調査両方に参加したのは，349名（男性224名，女性125名）であった。彼らに対して，現在の交際の有無を尋ねた結果，245名（70.2%）は交際継続中であった。2年間の間に交際が終結したと報告したのは104人であった。本研究では，この104人について分析対象とした。分析対象者は，男性64名，女性40名，平均年齢は，29.46歳（*s.d.* 6.63）[男性30.87歳（*s.d.* 6.44），女性27.20歳（*s.d.* 6.37）]であった。分析対象者には，交際終了の態様についての質問と交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度が実施された。調査項目は，先行研究（越智，喜入，甲斐，佐山，長沼，2015）にしたがって，「交際終了後，家などに押しかけてくることがあった」，「交際終了後，以前にあげたプレゼントを返せといわれた」などの具体的な項目，26問によって行い，調査対象者には「まったくなかった（1）」，「ほとんどなかった（2）」，「すこしあった（3）」，「何回かあった（4）」，「よくあった（5）」の5段階で回答させた。なお，調査は㈱クロス・マーケティングに委託して行った。回答はおおむね5～15分程度で行われた。参加者はこの調査に回答することでのちに商品などと交換することが出来る一定のポイントを得ることが出来た。

2-2. 結　果

交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の構成

各項目ごとの平均評定値をTable 1に示す（質問は簡略化している）。いずれの項目も「まったくなかった」という回答が最も大きく，分布は大きく「まったくなかった」側に歪んだものとなったので，各項目ごとの歪度についても示しておく。

26項目すべてで「まったくなかった（1）」と答えたものを除いたところ，32名（男性22名，女性10名）が残った（本論文では，この32名を「被害者」群とする）。これが，少なくとも1項目でつきまとい，ストーキングに該当する項目の被害を受けたものであり，その割合は，30.8%（男性34.4%，女性25.0%）であった。

次にこの交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度について因子分析を行った。なお，本研究では，60～70%の調査対象者は，つきまとい・ストーキングの被害を受けていないという偏ったデータであるため，因子分析の対象は，全員のデータではなく，すくなくとも1項目において「まったくない（1）」以上の評定を行った32名とした。因子分析は，重みづけのない最小二乗法で行い，プロマックス回転を行った。因子の抽出は固有値1の基準で行った。その結果，第3因子までで全体の分散の79.12%が説明された。結果のパターン行列をTable 2に示した。

この結果を基にして，因子分析をくり返し，因子負荷量の比較的小さな項目を削除するとともに，各因子の項目数を合わせる形で，項目の取捨選択を行った。最終的なパターン行列と因子間相関をTable 3に示す。第3因子までで全分散の82.45%が説明された。第1因子は，つきまとい，監視などに関する項目から構成され「未練」因子と名付けた。α係数は0.958であった。第2因子は，脅迫や経費の請求などに関する項目から構成され「攻撃」因子と名付けた。α係数は0.957で

あった。第3因子は，身体的な接触やプライベートな情報の漏洩などの項目から構成され「なれなれしさ」因子と名付けた。α係数は，0.925であった。3つの因子の合計点は，19.63で標準偏差は，10.48であった。それぞれの尺度の記述統計量について，わかれたカップルすべてを対象にした集計結果と少なくとも1項目に関してハラスメントを受けていた被験者（以下，被害者とする）についての集計結果をTable 4に示した。被害者のみの3つの因子の合計点は，30.06で，標準偏差は14.23であった。最大値は，63点であった。また，尺度間の相関係数を被害者と交際終了者ごとに集計したものをTable 5とTable 6に示す。それぞれの尺度の性差についてt検定で分析したところ，別れた全カップルを対象にしたデータについて，未練尺度（t(102)=1.47），攻撃尺度（t(102)=1.10），なれなれしさ尺度（t(102)=1.50）となり，被害者データに関して，未練尺度（t(30)

Table 1　各質問項目に対する回答の平均値，標準偏差，歪度

	平均値	標準偏差	歪　度
1，交際終了後，家などに押しかけてくることがあった。	1.31	0.76	2.74
2，交際終了後，しつこく電話がかかってきた。	1.33	0.78	2.59
3，交際終了後，しつこくメールやLINEがきた。	1.38	0.86	2.31
4，交際終了後，駅や職場，学校などで待ち伏せされた	1.24	0.66	2.99
5，交際終了後，直接口頭で脅迫的なことをいわれた	1.36	0.90	2.63
6，交際終了後，電話で脅迫的なことをいわれた	1.30	0.74	2.59
7，交際終了後，脅迫的なメールやLINEがきた	1.31	0.75	2.64
8，交際終了後，悪口を言いふらされた。	1.35	0.80	2.45
9，交際終了後，SNSなどに悪口を書かれた	1.31	0.80	2.73
10，交際は終了しているのにプレゼントなどをわたされた	1.30	0.70	2.17
11，交際は終了しているのにつきあっているように振る舞われた	1.35	0.84	2.52
12，交際終了後，しつこくつきまとわれた	1.31	0.78	2.82
13，交際が終了しているのにSNSなどの情報をチェックされた	1.30	0.80	3.02
14，交際終了後，暴力の被害を受けた	1.43	0.86	1.68
15，交際終了後，自宅のそばをうろついていた	1.32	0.79	2.48
16，交際終了後，いたずら電話などが増えた	1.24	0.60	2.89
17，交際終了後，しつこくよりをもどそうとした	1.36	0.88	2.63
18，交際終了後，プライベートな情報や秘密を他人にばらされた	1.33	0.79	2.67
19，交際終了後，なれなれしく体を触られた。	1.31	0.79	3.02
20，交際終了後，付き合ったときにかかった金を返せといわれた	1.32	0.83	2.81
21，交際終了後，以前にあげたプレゼントを返せといわれた。	1.34	0.75	2.09
22，交際終了後，汚物などが送られてきたり，家の前に置かれたりした。	1.29	0.77	2.94
23，交際終了後，監視しているとか見張っているなどといわれた。	1.30	0.76	2.66
24，交際終了後，名誉を傷つけられるようなことをいわれた	1.29	0.71	2.39
25，交際終了後，名誉を傷つけられるようなうわさを流された。	1.32	0.84	2.96
26，交際終了後，性的しゅうち（羞恥）心を侵害されるようなことがあった。	1.35	0.84	2.61

=1.12)，攻撃尺度（t(30)=0.605)，なれなれしさ尺度（t(30)=1.157）となり，すべての尺度で有意な差は見られなかった。また，調査回答者の年代（10 代，20 代，30 代）についても別れた全カップルを対象にしたデータについて，未練尺度（F(2,101)=0.706, *n.s.*)，攻撃尺度（F(2,101)=1.029, *n.s.*)，なれなれしさ尺度（F(2,101)=0.996, *n.s.*）となり，被害者データに関しても未練尺度（F(2,29)=1.189, *n.s.*)，攻撃尺度（F(2,29)=2.051, *n.s.*)，なれなれしさ尺度（F(2,29)=2.216, *n.s.*）となり有意な差は見られなかった。

Table 2　交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の因子分析結果（パターン行列）

	1	2	3
1，交際終了後，家などに押しかけてくることがあった。	0.96	−0.01	−0.03
2，交際終了後，しつこく電話がかかってきた。	0.58	0.12	0.25
3，交際終了後，しつこくメールや LINE がきた。	0.21	0.64	0.07
4，交際終了後，駅や職場，学校などで待ち伏せされた。	0.78	−0.22	0.33
5，交際終了後，直接口頭で脅迫的なことをいわれた。	0.24	0.72	0.05
6，交際終了後，電話で脅迫的なことをいわれた。	0.20	0.24	0.47
7，交際終了後，脅迫的なメールや LINE がきた。	0.62	0.28	0.07
8，交際終了後，悪口を言いふらされた。	0.01	0.86	0.05
9，交際終了後，SNS などに悪口を書かれた。	0.64	0.31	0.00
10，交際は終了しているのにプレゼントなどをわたされた。	0.69	0.37	−0.10
11，交際は終了しているのにつきあっているように振る舞われた。	0.45	0.18	0.28
12，交際終了後，しつこくつきまとわれた。	0.39	−0.19	0.71
13，交際が終了しているのに SNS などの情報をチェックされた。	0.33	0.50	0.12
14，交際終了後，暴力の被害を受けた。	0.77	−0.06	−0.18
15，交際終了後，自宅のそばをうろついていた。	0.62	0.17	0.21
16，交際終了後，いたずら電話などが増えた。	0.33	−0.02	0.68
17，交際終了後，しつこくよりをもどそうとした。	0.37	0.38	0.23
18，交際終了後，プライベートな情報や秘密を他人にばらされた。	0.08	0.09	0.73
19，交際終了後，なれなれしく体を触られた。	−0.27	0.03	1.05
20，交際終了後，付き合ったときにかかった金を返せといわれた。	0.23	0.53	0.18
21，交際終了後，以前にあげたプレゼントを返せといわれた。	0.01	0.68	0.26
22，交際終了後，汚物などが送られてきたり，家の前に置かれたりした。	0.49	0.45	0.04
23，交際終了後，監視しているとか見張っているなどといわれた。	0.65	0.34	−0.08
24，交際終了後，名誉を傷つけられるようなことをいわれた。	−0.10	1.12	−0.15
25，交際終了後，名誉を傷つけられるようなうわさを流された。	0.40	0.32	0.22
26，交際終了後，性的しゅうち（羞恥）心を侵害されるようなことがあった。	−0.28	0.56	0.58
因子相関行列	1	0.813	0.799
		1	0.749
			1

Table 3　交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の因子分析結果

	未　練	攻　撃	なれなれしさ
1，交際終了後，家などに押しかけてくることがあった。	1.04	0.03	−0.14
4，交際終了後，駅や職場，学校などで待ち伏せされた	0.73	−0.13	0.30
10，交際は終了しているのにプレゼントなどをわたされた	0.68	0.39	−0.11
15，交際終了後，自宅のそばをうろついていた	0.67	0.23	0.13
23，交際終了後，監視しているとか見張っているなどといわれた。	0.51	0.41	0.01
24，交際終了後，名誉を傷つけられるようなことをいわれた	−0.08	1.12	−0.15
8，交際終了後，悪口を言いふらされた。	0.05	0.75	0.12
5，交際終了後，直接口頭で脅迫的なことをいわれた	0.26	0.68	0.09
21，交際終了後，以前にあげたプレゼントを返せといわれた。	0.07	0.65	0.25
20，交際終了後，付き合ったときにかかった金を返せといわれた	0.23	0.54	0.20
19，交際終了後，なれなれしく体を触られた。	−0.16	0.02	0.97
18，交際終了後，プライベートな情報や秘密を他人にばらされた	0.06	0.11	0.75
16，交際終了後，いたずら電話などが増えた	0.33	0.04	0.64
12，交際終了後，しつこくつきまとわれた	0.49	−0.18	0.61
26，交際終了後，性的しゅうち（羞恥）心を侵害されるようなことがあった。	−0.09	0.48	0.50
未　練	1	0.764	0.761
攻　撃		1	0.701
なれなれしさ			1

Table 4　交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の記述統計

	交際終了者		被害者	
	平　均	標準偏差	平　均	標準偏差
第１尺度　未練	6.46	3.50	9.75	4.96
第２尺度　攻撃	6.64	3.81	10.34	5.26
第３尺度　なれなれしさ	6.53	3.53	9.97	4.87

Table 5　交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度間の相関係数（交際終了者）

	未　練	攻　撃	なれなれしさ
第１尺度　未練	—	.919	.900
第２尺度　攻撃		—	.887
第３尺度　なれなれしさ	—		

Table 6　交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度間の相関係数（被害者）

	未　練	攻　撃	なれなれしさ
第１尺度　未練	—	.864	.831
第２尺度　攻撃		—	.803
第３尺度　なれなれしさ		—	

交際終了からの期間とつきまとい・ストーキングの関連

104名の交際終了者について，第2回目調査の時点で，別れてからの期間について質問した。その結果，2年程度が30名，1年程度が27名，半年程度が25名，最近が22名であった。そこで，これらの期間と交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の間に関連があるかどうか，それぞれの尺度ごとに分散分析を行った。その結果，第1尺度未練（$F(3,100)=3.411$, $p=0.20$），第2尺度攻撃（$F(3,100)=3.731$, $p=.014$），第3因子なれなれしさ（$F(3,100)=3.749$, $p=.013$）となった。それぞれの値をTable 7に示した。一般的に別れてからの期間が長くなるに従って，つきまとい・ストーキングの得点が低くなる傾向が見られた。

32人の被害者についての分析では，交際終了期間は，2年程度が8名，1年程度が5名，半年程度が11名，最近が8名であった。そこで，これらの期間と交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の間に関連があるかどうか，それぞれの尺度ごとに分散分析を行った。その結果，第1尺度未練（$F(3,28)=2.409$, $p=0.88$），第2尺度攻撃（$F(3,28)=2.905$, $p=.052$），第3因子なれなれしさ（$F(3,28)=3.330$, $p=.034$）となった。それぞれの値をTable 8に示した。一般的に別れてからの期間が長くなるに従って，つきまとい・ストーキングの得点が低くなる傾向が見られたものの，分析対象者の数が少なかったということもあり，結果は傾向差にとどまった。

交際終了形態とつきまとい・ストーキングの関連

104名の調査対象者について，交際終了のステータスを「自分から別れを切り出した」,「相手が別れを切り出した」,「双方で話し合って別れた」,「何となく疎遠になって別れた」,「その他」の5つで分類したところ，自分24名，相手23名，双方22名，なんとなく34名，その他1名となった。その他の一名は「無視されて別れた」と自由記述していることから,「相手が別れを切り出した」カテゴリーにいれ，ステータス間で交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の得点に差があるかどうかについて集計した。結果をTable 9に示した。この結果について，分散分析したところ，第1尺度未練（$F(3,100)=0.242$, $p=0.869$），第2尺度攻撃（$F(3,100)=0.261$, $p=.854$），第3因子なれなれしさ（$F(3,100)=0.306$, $p=.821$）となりすべての尺度で有意な差は認められなかった。

32名の被害者について，交際終了のステータスを「自分から別れを切り出した」,「相手が別れを切り出した」,「双方で話し合って別れた」,「何

Table 7　交際終了後の期間と交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の得点（交際終了者）

		2年	1年	半年	最近
第1尺度	未練	5.70	5.30	7.52	7.72
第2尺度	攻撃	5.90	5.22	7.84	8.05
第3尺度	なれなれしさ	5.40	5.67	7.56	7.95

Table 8　交際終了後の期間と交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の得点（被害者）

		2年	1年	半年	最近
第1尺度	未練	7.62	6.60	10.72	12.50
第2尺度	攻撃	8.37	6.20	11.46	13.38
第3尺度	なれなれしさ	6.50	8.60	10.82	13.13

Table 9　交際終了ステータスと交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の得点（交際終了者）

	自分から	相手から	話し合い	なんとなく
第１尺度　未練	6.05	6.33	6.50	6.82
第２尺度　攻撃	6.54	6.17	6.64	7.06
第３尺度　なれなれしさ	6.42	6.00	6.91	6.74

Table 10　交際終了ステータスと交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の得点（被害者）

	自分から	相手から	話し合い	なんとなく
第１尺度　未練	7.77	11.40	9.13	11.20
第２尺度　攻撃	9.11	10.60	9.50	12.00
第３尺度　なれなれしさ	8.77	9.80	10.25	10.90

となく疎遠になって別れた」,「その他」の５つで分類したところ，自分９名，相手５名，双方８名，なんとなく10名，その他０名となった。ステータス間で交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の得点に差があるかどうかについて集計したものをTable 10に示した。この結果について，分散分析したところ，第１尺度未練（F（3,28）=0.983, p=0.415），第２尺度攻撃（F(3,28)=0.542, p=.658），第３因子なれなれしさ（F(3,28)=0.291, p=.832）となりすべての尺度で有意な差は認められなかった。

交際終了時の感情と交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の関連

次に交際終了時の感情と交際終了後のつきまとい・ストーキングの関連について分析した。まず，第２回調査時に，104名の交際終了者については，交際終了時の感情についての12項目の評定尺度を行わせた。この尺度について重みづけのない最小二乗法でプロマックス回転を行った。因子負荷量の比較的低い項目などを削除して因子分析をくり返し，最終的に８項目からなる二つの因子の尺度を作成した。この尺度は，第２因子までで全体の分散の70.94%を説明する。パターン行列をTable 11に示す。因子間相関はr=.080となった。第１因子は，ネガティブな感情の因子（α =0.939），第２因子はポジティブな感情の因子（α =0.862）であった。

104名の交際終了者について，これらの値と，交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の相関係数を算出したものをTable 12に示した。すべての組み合わせで相関係数は非常に低く有意な相関は見られなかった。

Table 11　交際終了時の感情尺度の因子分析結果

	ネガティブ感情	ポジティブ感情
傷ついた	0.86	0.07
落ち込んだ	0.92	−0.04
絶望した	0.91	−0.04
何も手がつけられない	0.87	0.02
すっきりした	−0.14	0.80
せいせいした	0.11	0.80
いい気分になった	0.01	0.76
ほっとした	0.02	0.78
因子間相関	0.08	

Table12　交際終了時の感情得点と交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度間の相関

	ネガティブ感情	ポジティブ感情
第１尺度　未練	.032	.090
第２尺度　攻撃	.056	075
第３尺度　なれなれしさ	.029	.056

比較的シビアなストーキングのケースのみについての分析

上記の分析では，一つの項目でも「1（まったくなかった）」以外の選択肢をとったものを「被害者群」ととらえていた。しかし，これは極めてマイルドなつきまいとい行為をも含むものであり，語感的に「つきまとい・ストーキング」というのは少し異なっていた。そこで，「被害者群」の認定基準をすこしあげて同様の分析を行うことにした。まず，構成したつきまとい・ストーキング尺度の 3 つの因子の合計得点が 30 点（各項目の平均点が 2.0）の調査対象者（上位 13.5%）を抽出したところ，15 名（男性被害者 12 名，女性被害者 3 名）が選択された。各群の平均値と標準偏差を Table 13 にあげる。また，これらの抽出された集団において男女に差があるかを検討したが，すべての因子で有意な差が見られなかった（未練：$t(13)=-.438$, *n.s.*; 攻撃：$t(13)=-.626$, *n.s.*; なれなれしさ：$t(13)=-.808$, *n.s.*）。また，交際終了期間との間（未練：$F(3,11)=.955$, *n.s.*; 攻撃：$(3,11)=.1.082$, *n.s.*; なれなれしさ：$F(3,11)=.871$, *n.s*）。交際終了ステータスとの間（未練：$F(3,11)=.851$, *n.s.*; 攻撃：$F(3,11)=.879$, *n.s.*; なれなれしさ：$F(3,11)=.240$, *n.s*）にも有意な傾向は見られなかった。

3. 考察とまとめ

本研究では，交際終了時のつきまとい・ストーキング行動について，交際中からの追跡研究によって，その頻度を明らかにするとともに，ストーキング行動の分類とその程度を測定する尺度

Table 13　交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の記述統計

	交際終了者		シビア被害者	
	平　均	標準偏差	平　均	標準偏差
第 1 尺度　未練	6.46	3.50	14.13	3.72
第 2 尺度　攻撃	6.64	3.81	15.00	3.24
第 3 尺度　なれなれしさ	6.53	3.53	14.07	3.79

Table 14　交際終了後の期間と交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の得点（シビアな被害者）

	2 年	1 年	半年	最近
人　数	1	1	7	6
第 1 尺度　未練	18.00	10.00	13.42	15.00
第 2 尺度　攻撃	15.00	10.00	15.00	15.83
第 3 尺度　なれなれしさ	11.00	10.00	13.85	15.00

Table 15　交際終了ステータスと交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度の得点（シビアな被害者）

	自分から	相手から	話し合い	なんとなく
人　数	2	3	4	6
第 1 尺度　未練	13.50	15.33	11.75	15.33
第 2 尺度　攻撃	15.50	14.33	13.25	16.33
第 3 尺度　なれなれしさ	15.00	13.00	15.00	13.67

を作成した。つきまとい・ストーキング行動については単に「それらの行為があったか無かったか」を質問するのでなく，先行研究（越智，喜入，甲斐，佐山，長沼，2015）の方法論にしたがって，より具体的な項目について質問し，その頻度について答えさせた。その結果，なんらかのつきまとい・ストーキングが見られたと報告したカップルは，32.7％いたものの，その多くは，比較的軽微な被害であった。この結果は実際のカップルにおいて，つきまとい・ストーキングが生じるのは実際にはそれほど，多くないということを示している。また，交際終了後のつきまとい・ストーキング行動尺度を因子分析し，未練，攻撃，なれなれしさの３つの因子からなる尺度を構成した。それぞれの尺度で測定されるストーキング得点は，性差，年代差，交際終了ステータスの種類で差はなかった。これは比較的シビアな被害を受けている被害者のみを分析した結果でも同様であった。

本研究と同様な問題意識で行われた研究として島田（2017）がある。この研究では，本研究と同様の18～39歳の女性のみを対象にして，ストーカー行為の26項目からなる被害調査を行い，その結果を探索的因子分析し，精神的圧迫，生活空間侵害，物理的暴力，過剰連絡，間接侵害，接近の６つの因子を抽出している。本研究で見いだされた未練の因子は，島田らの生活空間侵害因子に，攻撃の因子は，精神的圧迫，物理的暴力，間接侵害因子に，なれなれしさ因子は，過剰連絡，接近因子とほぼ対応しており，独立して異なった対象と研究方法で行われた研究が同様な因子を報告していることから，本研究で作成した尺度もある程度の信頼性，妥当性のあるものだと思われる。

引用文献

警察庁（2021）．令和２年におけるストーカー事案および配偶者からの暴力事案等への対応状況について　警察庁生活安全局生活安全企画課，刑事局捜査第１課（2021.3.4）

警視庁（2021）．ストーカー事案の概況　警視庁生活安全総務課ストーカー対策室（2021.4.19）

越智啓太（2013）．ケースで学ぶ犯罪心理学．北大路書房．

越智啓太・喜入暁・甲斐恵利奈・佐山七生・長沼里美（2015）．改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析（1）── 被害に焦点を当てた分析 ──　法政大学文学部紀要，71, 135-147.

四方光・島田貴仁（2014）．我が国におけるストーカー事犯の現状と課題 ── 全国の警察署担当者に対するアンケート調査の結果から ──　警察政策，16，144-162.

島田貴仁（2016）．ストーキングの被害過程．刑法雑誌，55(3)，459-470.

島田貴仁（2017）．日本における若年女性のストーキング被害 ── 被害者・加害者の関係と親密な関係者間暴力に注目して ──．犯罪社会学研究，42，106-120.

島田貴仁・伊原直子（2013）．ストーカー・DV・デートDVの加害者・被害者像．日本心理学会大会発表論文集 日本心理学会第77回大会発表論文集．公益社団法人 日本心理学会．

注　釈

（１）　本研究は日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）の助成を受けて行われた。

（２）　本研究は，法政大学文学部心理学科，心理学専攻倫理委員会の承認を受けて実施された。

（３）　本研究の一部は，日本犯罪心理学会第57回大会（日本女子大学）において発表された。

APPENDIX　交際終了後のつきまとい・ストーキング尺度

「まったくなかった（1)」,「ほとんどなかった（2)」,「すこしあった（3)」,「何回かあった（4)」,「よくあった（5)」で評定する

第1尺度　未練尺度

1, 交際終了後，家などに押しかけてくることがあった。
2, 交際終了後，駅や職場，学校などで待ち伏せされた。
3, 交際は終了しているのに，プレゼントなどを渡された。
4, 交際終了後，自宅のそばをうろついていた。
5, 交際終了後，監視しているとか見張っているなどと言われた。

第2尺度　攻撃尺度

1, 交際終了後，直接口頭で脅迫的なことを言われた
2, 交際終了後，悪口を言いふらされた
3, 交際終了後，つきあったときにかかった金を返せと言われた
4, 交際終了後，以前にあげたプレゼントを返せと言われた
5, 交際終了後，名誉を傷つけられるようなうわさを流された。

第3尺度　なれなれしさ尺度

1, 交際終了後，しつこくつきまとわれた
2, 交際終了後，いたずら電話などが増えた
3, 交際終了後，プライベートな情報や秘密を他人にばらされた
4, 交際終了後，なれなれしく体を触られた
5, 交際終了後，性的羞恥心を侵害されるようなことがあった。

Measure and Analyze Stalking Behavior After a Romantic Relationship Ends

Keita OCHI

Abstract

In this study, a scale was created to measure stalking behavior after a romantic relationship has ended. After tracking 1000 couples for two years, we were able to collect data on 104 people whose love had collapsed during this period. Of these, 32.7% had some sort of stalking harassment. Factor analysis of their stalking behaviors resulted in a metric consisting of three factors: untrained, aggressive, and negligent. Analysis showed that there was no gender difference in these scale scores, and that there was no association between the time of separation, the form of separation, and the feelings of separation. From these results, the stalking behavior after the end of the relationship was discussed.

Keywords : stalking, romantic relationships, harassment, dating violence